

平成30年2月5日
福井県立丹生高等学校

教職員支援機構が全国で募集し、106点から選出
ニッ
ツ
丹生高等学校が第1回「NITS大賞」大賞を受賞
教員の資質向上や課題解決を目指して、事例の共有へ

福井県立丹生高等学校の山口明彦校長は、独立行政法人教職員支援機構(略称：NITS、ニッツ)が今年度からスタートした「NITS大賞」の第1回大賞を受賞しました。

「NITS大賞」とは、教員の養成・採用・研修の一体的改革を担う中核拠点としてさまざまな活動を行うNITSが、教員の資質向上や教育現場の課題解決を目指して、教員や学校などが実践した活動を広く募集し、表彰・公開する事業です。第1回の今年度は106点の応募があり、優秀賞10点を選出され、2月2日、東京・丸の内で行われた発表会(プレゼンテーション)で審査の結果、大賞に丹生高等学校が選ばれました。

受賞した活動は、NITSで研修を受けた福井県立丹生高等学校の山口明彦校長が実践した「研修成果の還元の工夫～動画教材をYouTubeで配信～」です。山口校長はNITSで受けた研修の成果を学校現場や次世代に十分に還元できていないという課題に対し、デジタル教材化して動画配信して、普及に努めました。審査員からは、「研修で得た学びを、若手、中堅教員それぞれの立場に応じて加工し、YouTubeで発信することによっていつでもどこでも見ることができるようにしたこと、校内研修だけではなく、校長会でも活用されたこと、さらには、福井県の教員センターが全県に共有したこと、など多くの関係機関を巻き込み、普及に工夫をしている」と高く評価されました。紙媒体を脱してWebを活用した手法にも先進性があり、効果・影響度が大きいとされました。

全国の学校や教員に共通する課題は多く、それぞれの現場で取り組むだけでなく、互いにノウハウや経験を共有することによって、新たな発展が期待されます。NITS大賞では、全国から寄せられたエントリーシートすべて掲載した事例集を作成し(3月下旬発行予定)、全国の教育現場にフィードバックして、効果的な活動の実践をサポートします。



福井県立丹生高等学校の山口明彦校長(右)と
教職員支援機構の高岡信也理事長

<本件に関するお問い合わせ先>

独立行政法人教職員支援機構 研修事業課長 内場裕子

電話：029-879-6630(直通) FAX：029-879-6645 mail: huchiba@nits.go.jp

第 1 回「NITS 大賞」受賞一覧

賞	応募部門	実践取組名	エントリー主体
優 秀 賞	研修成果 活用部門	研修成果の還元の工夫 ～動画教材を YouTube で配信～	福井県立丹生高等学 校 山口明彦校長
	研修成果 活用部門	”折れないしなやかな心”の育て方 ～学級活動(2)を中心としたレジリエンスを高め る実践を通して～	鹿児島県南九州市立 松ヶ浦小学校 内野 裕太教諭
	多忙化 改善部門	「プロジェクト制度」で実現したワークシェア リング	学校法人石川キンダ ー学園 城山みどり 幼稚園
	多忙化 改善部門	「多忙感」から「充実感」のある職場へ ～子どもたちと向き合う時間を確保するための 業務改善を通して～	静岡県立中央特別支 援学校
	多忙化 改善部門	多忙化改善作業時間 4 時間短縮 マークシート と採点ソフトを活用したミニテストの実施による 教材研究時間の確保	榛東村立榛東中学校
	校内研修 部門	緊急時対応安全実地研修 ～「気づき、考え、判断し、行動できる子の育 成」をめざした安全教育～	京都市立養徳小学校
	校内研修 部門	シャドーイングの要素を入れた 協働での指導 案作成をきっかけとした「教師」の成長支援	横浜市立緑園東小学 校
	校内研修 部門	授業改善を通じた学校組織力向上を図るアクシ ョンラーニング型校内研修～行動【アクション】 から学び、チーム学校をエンパワメントする ～	和歌山県立田辺工業 高等学校
	校内研修 部門	小学校教諭と高校教諭による立ち合い授業で授 業力について考える校内研修	愛知県豊川市立国府 小学校
	教員のキャ リアデザイ ン部門	教職大学院と教育委員会の協働による学校管理 職養成のシステムとコンテンツの開発	岐阜大学教職大学院
ミ ニ ツ ツ 賞	研修成果 活用部門	子供と教職員を危機から守る学校マネジメント	杉並区立済美小学校 副校長 竹内 明子
	多忙化改 善部門	ICT を活用した働き方改革「業務改善プロジェク ト」～「ペーパーレス職員会議」による業務負担 の軽減対策について～	京都市立梅津小学校
カ フ エ 賞	教員のキャ リアデザイ ン部門	教職大学院と教育委員会の連携・協働による教 職キャリア形成、教職大学院カリキュラムやミ ドルリーダー養成に貢献する現職教員研修プロ グラムの開発	山口大学大学院教育 学研究科教職実践高 度化専攻（教職大学 院）

※ミニッツ賞：優秀賞にはいかなかったが、課題解決に向けて先進的な取り組みを表彰
 ※NITS カフェ賞：教職大学院が中心となって、養成・研修を担う教職大学院、教育委員会
 などの専門の教育関係者と、一般の現職教員、学校、地域、民間企業等が教員のキャリア
 デザインをテーマに語り合う参加型のワークショップを支援する当機構の事業「NITS
 カフェ」の運営において特に優れた取り組みを表彰。